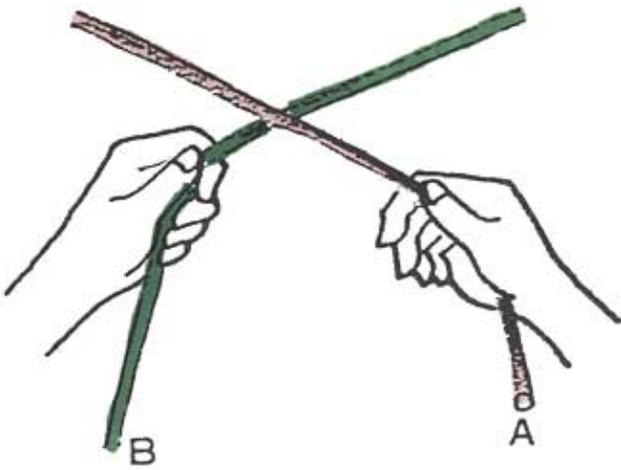


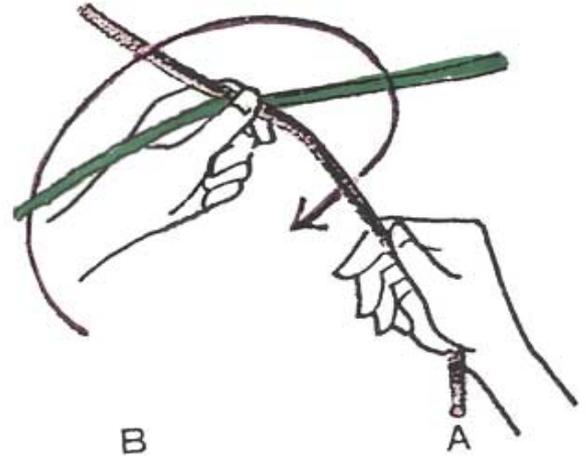
男結びの結び方

「男結び」の結び方をよく聞かれる。基本的には同じ結び方なのだが、完成までのバリエーションが豊富で、各人各様のやり方になっている。したがって今年はYさんに聴き、来年はKさんに聴くと、全く別の結び方に感じられて覚えられない。20年ほど前に男結びの結び方が書いてある本を見つけた。これが私には良く理解できたので、コピーを保管し毎年これを見てやっていたところ、何年かしたら見なくてもできるようになった。このページを作るため改めてコピーを見たところ、現在の結び方がコピーとは異なっており、ナウエモン流の男結びになっていると感じた。

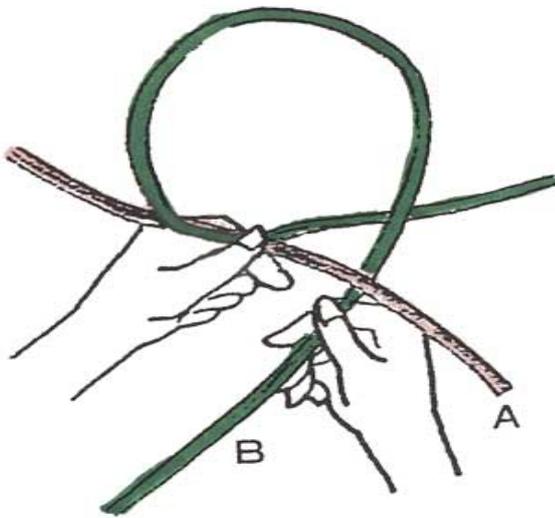
最も大切なことは、縄と縄の **交点をしっかりと押さえ続け** 緩まない様にするることである。次に大切なことは、余っている指(特に左の3本)を上手に使うことである。堅く締め、しっかりと結ぶには、若干の工夫と慣れが必要である。では以下にナウエモン流「男結び」を紹介しよう。



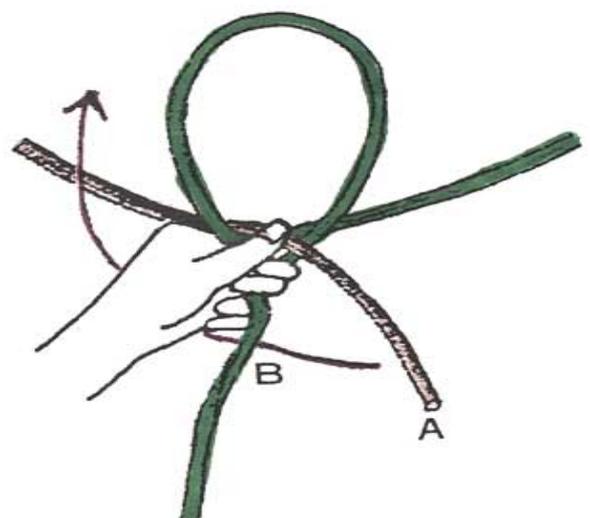
1 左巻きにし、端 A を上にして縄を交差させる



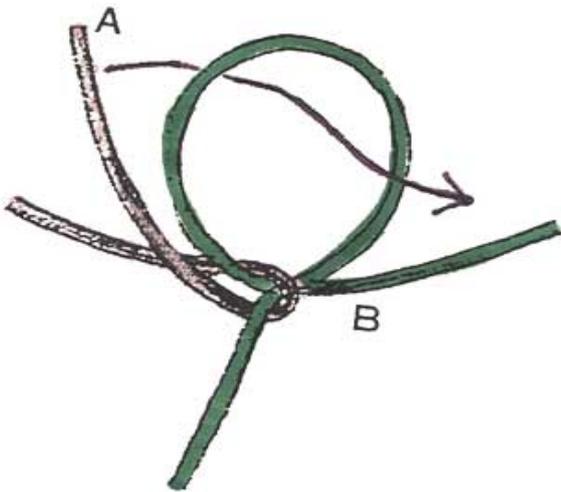
2 交点を親指と人差し指で**しっかりと**押さえる



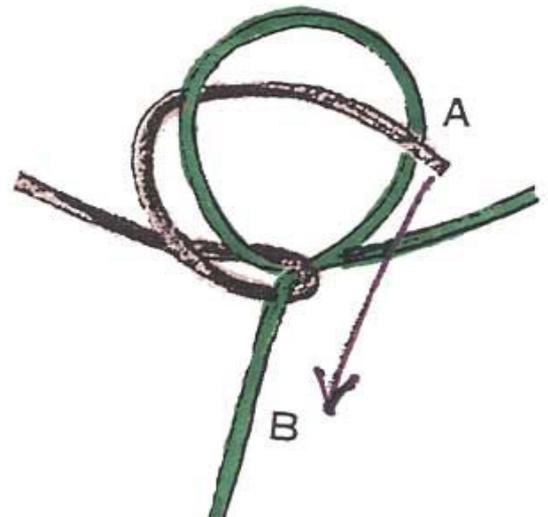
3 右手で B を持ち、輪を作って A の下を通す



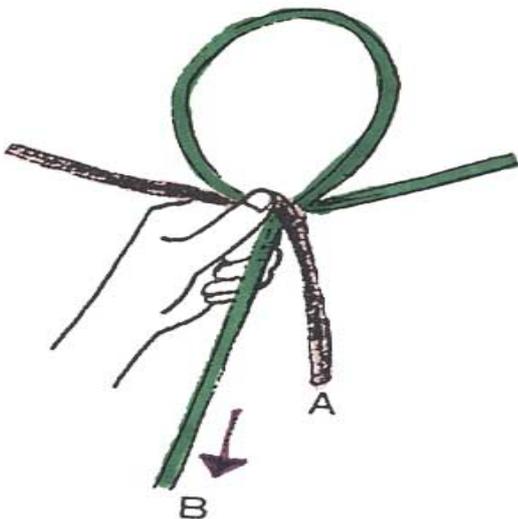
4 A を左手の下を通して引き上げ



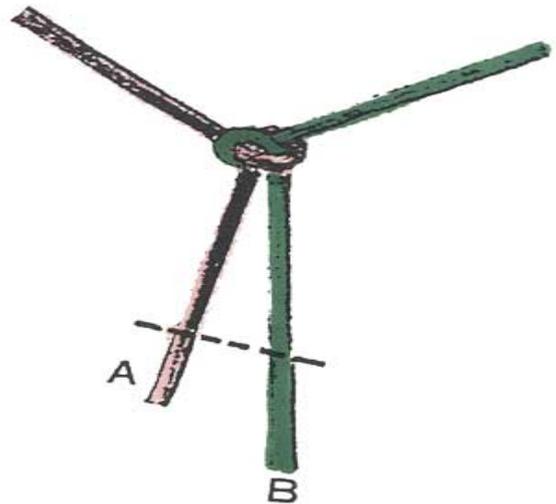
5 押さえながら A を B の輪に通す



6 通したら B の方向に引き結び目を押さえる



7 B を引いて締める



8 そろえて端を切って男結びの完成



縄端を右下から上、左に交差して左下から上と通し、再度交差した中央で男結びをする



要(かなめ)は常緑樹なので雪囲いが必要